

ID <sup>注1)</sup>	161205	公開レベル <sup>注1)</sup>	C	保管形式 <sup>注1)</sup>	紙	保管場所 <sup>注1)</sup>		前回ID	111207
-------------------	--------	----------------------	---	---------------------	---	---------------------	--	------	--------

報告書名称 /調査名称	平成28年度保護林（米代川、北上川中流、庄内森林計画区）のモニタリング調査及び評価業務						発行年月/報告年月	
							2017年	1月
調査機関	東北森林管理局			委託機関			株式会社 一成	
調査開始年	2011年		調査期間	2016年	6月	～	2017年	3月
調査頻度 <sup>注2)</sup>	隔年	—	調査時期 <sup>注2)</sup>	夏	秋	—		
モニタリング計画	2012年3月	策定	区分 <sup>注2)</sup>	IIA	大区分 <sup>注2)</sup>	1	小区分 <sup>注2)</sup>	(1)

調査箇所・範囲 <sup>注3)</sup>			調査手法		
<input checked="" type="checkbox"/> 核心地域	<input checked="" type="checkbox"/> 緩衝地域	<input checked="" type="checkbox"/> 周辺地域	保護林名：白神山地森林生態系保護地域 面積（ha）：4344.15（米代西部森林管理署） 保護林の目的：日本海型ブナ林を主体とする原生的な天然林を保存し、森林生態系からなる自然環境の維持、動植物の保護、遺伝資源の保存、森林の管理・学術研究等に資することを目的とする。 調査項目：本調査の目的及び対象保護林調査を遂行するため、平成19年7月に策定された「保護林モニタリング調査マニュアル」および「平成28年度 東北森林管理局保護林（米代川、北上川中流、庄内森林計画区）モニタリング調査及び評価仕様書」に従って、以下の様式にとりまとめた。 ・基礎調査 1. 資料・既存文献調査整理表の作成 2. 保護林情報図及び情報図整理表の作成 3. 保護林周辺における衛星写真図の作成 4. 概況調査整理表の作成 5. 保護林モニタリング調査チェックリストの作成 6. 森林調査 7. 動物調査（鳥類調査） 8. 動物調査（哺乳類調査） 9. 利用動態調査 現地調査計画及び総括整理表の作成		
<input checked="" type="checkbox"/> GPS等の位置データあり					
 <p>調査対象地位置図(秋田県側)</p> <p>※周辺地域における調査箇所は備考欄に示す。</p>					

結果概要（スペースに収まるように入力してください）

基礎調査

- ・本保護林は、秋田県北西部と青森県南西部の県境にまたがる地域に位置する。
- ・面積全体の56.8%を占める保存地区においては、天然生林の占める割合が高くなっている（保存地区の99.2%）。北西に位置するニツ森、北東部に位置する小岳、南西部に位置する次郎左衛門岳の付近のみ林地外が見られる。保全利用地区については、わずかに見られる林地外（保全利用地区の1.8%）、人工林（保全利用地区の1.4%）以外は天然生林となっている。
- ・周辺部の国有林は、多くが天然生林であるが、一部人工林も見られる。
- ・東側で「白神八甲田緑の回廊」と接続している。
- ・本保護林は、「秋田白神県立自然公園」に位置し、保全利用地区の一部には自然観察教育林(ニツ森、小岳付近)が配置されている。

第1回モニタリング(平成23年度)との結果比較:特に変化は見られなかった。

問い合わせ 林野庁 東北森林管理局 計画保全部計画課  
 〒010-8550 秋田県秋田市中通5丁目9番16号  
 TEL: 018-836-2489 FAX: 018-836-2203  
 ≪原本(データ)の帰属について≫

注1) 「ID」「公開レベル」「保管形式」「保管場所」については記入しないこと。  
 注2) ドロップダウンリストから該当する項目を選択すること。  
 注3) 該当する項目の口をクリックし、チェックを入れる。

備考

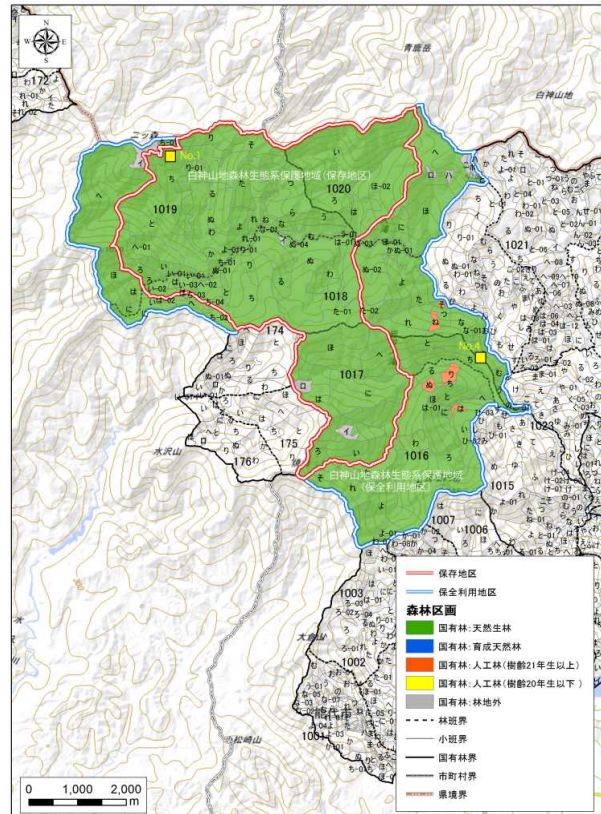
●森林調査

調査プロットNo.1(標高1034m) 調査日:8月23日  
 胸高直径30~50cmのブナ、ダケカンバが林冠を構成しており、亜高木層には直径20cm程度のブナ、ナナカマド等が生育していた。低木層にはチシマザサが優占し、ナナカマド等が生育しており、草本層にはヒメアオキ、ツルアリドオシ、シノブカグマ等が生育していた。

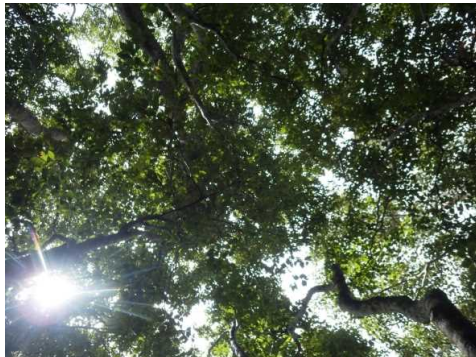
調査プロットNo.4(標高426m)調査日:8月21日  
 胸高直径40~60cmのブナ、ミズナラが林冠を構成しており、亜高木層には直径20~30cm程度のブナ、コハウチワカエデ等が優占して生育していた。低木層にはチシマザサ、オオバクロモジ、マルバマンサク、リョウブ等が生育し、草本層にはオオイワウチワ、ケナシハクサンシャクナゲ、ヤマソテツ等が生育していた。

○各階層にブナが生育しており、ブナ林が維持されていくものと思われる。

保護林情報図



第1回モニタリング(平成23年度)との結果比較: 特に変化は見られず、病虫害も確認されなかった。



プロットNo.1中心点の真上の写真



プロットNo.1中心点より北方向の写真



プロットNo.4中心点の真上の写真



プロットNo.4中心点より北方向の写真

## 備考

## ●動物調査

## 白神R-1

哺乳類ではホンドザル、トウホクノウサギ、ツキノワグマ、ホンドテン、ニホンアナグマの5種類が確認され、鳥類ではアオバト、ホトギス、ツツドリ、クマタカ等、17種が確認された。

## 白神R-4

哺乳類ではホンドザル、トウホクノウサギ、ツキノワグマ、ホンドテン、ニホンアナグマ、ニホンカモシカの6種類が確認され、鳥類ではアオバト、コゲラ、アカゲラ、カケス、コガラ等、12種が確認された。

第1回モニタリング(平成23年度)との結果比較鳥類は3種が新たに確認され12種が未確認、哺乳類については大きな変化は見られなかった。

## ●利用動態調査

調査日: 2016年10月23日(日)

調査地点: ニッ森登山道入口駐車場

地元(秋田県内、青森県内)の利用者を中心とした利用が確認された。多くは紅葉観光目的であったが、中にはきのこ取りが主目的のグループも複数確認された。

第1回モニタリング(平成23年度)との結果比較: 前回と比べ、季節変動や暦上の条件を考慮すると、利用者数や利用目的に大きな変化はないと考えられた。



登山口の種子除去マット



登山道入り口



保護林案内看板



整備された歩道